

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 5 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530979

研究課題名(和文)義務教育学校における学力評価システムの改善モデルの構築と評価に関する調査研究

研究課題名(英文)Development and Assessment of Evaluation Systems for Scholastic Ability of Students in Compulsory Schooling

研究代表者

小泉 祥一 (KOIZUMI, Shoichi)

東北大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：30136410

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：義務教育学校の学力評価システムの改善モデルについては、小・中学校における評価方法の関連性と一貫性、及び教育課程経営のPDSサイクルの視点から考える重要性を明確にし、現行の観点別評価を見直し、結果、目標に基づく評価に目標にとられない評価を加え、(1)知識・技能、(2)思考力、(3)主体的学習態度の3観点による達成、未達成の2段階評価と自由記述方式による学力評価システムモデルを提案した。このシステムが機能するためには、学校内の情報交換ネットワーク形成への努力と教育専門性に裏打ちされた校長・教頭等のリーダーシップが不可欠であり、それを支援する教育委員会の条件整備活動が必要であることを指摘した。

研究成果の概要(英文)：A new model of criterion-referenced assessment should include assessments of knowledge, skill, thinking, and attitude. It is to be a two-grade (A or B) evaluation. A new model of assessment should include criterion-referenced assessment and goal-free evaluation. In order for this assessment system to be realized and made to function, formation of an information network is required. Moreover, the leadership of a principal and a vice-principal, with specialist knowledge in education is required. In addition, the board of education should provide the necessary conditions for supporting these measures in schools.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：教育評価 学力評価 指導要録 教育課程経営 学習評価 義務教育学校

1. 研究開始当初の背景

(1) 指導要録に基づく学力評価方式(4観点3段階評価)については、目標準拠評価に対応して、おもに各学校の「評価規準」や「評価基準」の作成など、教育目標(教科等目標、単元目標など)との関連において研究、実践がなされてきたが、その中で観点別評価の取り扱いと構造、A・B・Cの3段階評価のあいまいさと相対評価化傾向、観点別評価の評定化の方法、評定の相対評価化傾向など、評価システムおよび評価技術上さまざまな問題がみられる。また、その評価方式が児童生徒の学習において改善の手がかりや見通しを与えるものとは必ずしもなっていないという状況もみられる。

(2) この点について、日本教育方法学会、日本カリキュラム学会、東北教育実践・経営学会などにおける研究発表をとおして、問題状況を分析し、改善方策の手がかりを得るために議論し、検討してきた。その結果、3観点2段階評価と自由記述による学力評価モデルを提案した。

2. 研究の目的

(1) 研究の全体構想としては、平成22年4月改訂の指導要録にみられる学力評価の有効性と問題性を子どもの学習意欲の向上の視点から実証的に分析し、その学力評価の特徴と課題を踏まえ、義務教育学校における学力評価システムの改善モデルの有効性と実現性を提示することである。

(2) そのために本研究では、指導要録の学力評価方式の取り組み実態を調査分析し、その学力評価の特徴と課題を把握し、学力評価システムを、児童生徒の学習意欲を高め、教育合理的で、かつ実現可能な改善モデルとして構築し、実証的に評価するとともに、それが効果的に機能するための条件・課題について提示することを目的としている。

3. 研究の方法

(1) 研究手順として、全国の教育委員会調査、意欲的に研究開発を進めているいくつかの学校調査、および外国調査(中国)などの実態調査研究をもとに、学力評価方式の実態と問題点を明らかにするとともに、義務教育学校における学力評価システムの改善モデルを構築する。

問題分析、資料分析。文部科学省と各教育委員会における指導要録改訂に関する審議会資料と学力評価方式に関する手引書や調査資料ならびに文献を収集し、分析し、何を根拠にどのような学力がどのように評価されているかを整理する。

全国調査。都道府県と政令指定都市の教育委員会に対して、小学校および中学校における指導要録の記載方法(学力評価方式)についてどのような指導助言や支援活動がなされているかを調査する。

事例研究。学力形成や学力評価の研究開発に力を入れている小・中学校(研究協力者の勤務校を含む)に対して、学力形成と学力評価にどのような工夫がなされているかを調査する。

外国調査。をもとに、中国の学校調査(上海市と杭州市の学校)を行い、小・中学校における学力評価方式の特徴と課題について調査する。

上記の調査研究を踏まえて、義務教育学校の学力評価システムの改善モデルを構築する。

構築した学力評価システムの改善モデルについて、本研究の研究協力校(研究協力者の勤務する小学校と中学校)において試行することによって実証的に評価するとともに、それが効果的に機能するための条件・課題について析出する。

4. 研究成果

(1)従来の学力評価研究における、教育目標との関連における「評価規準」・「評価基準」作成の精緻化傾向の問題点を指摘し、さらにその中でみられる観点別評価や評定の相対評価化傾向の問題点を明確にし、評価システムおよび評価技術上の課題を浮き彫りにした点。

学力評価について、教育委員会の多くは、前回の改訂時の資料を基に一部修正し、内容の徹底を図り、また文部科学省の説明をそのまま徹底させていること、教育委員会独自の取り組みがなされず、とりわけ観点別評価の観点の工夫についてはほとんど意識されていないこと、すなわち、指導要録の参考様式の浸透に指導の重点がいき、学力の観点や行動の記録の項目の工夫や創造については意識が向いていないことなどが明らかになった。学校現場では、観点別評価と評定は一定程度定着しているが、教科によって文科省の示す参考様式では不具合が生じていること、関心・意欲・態度については評価しにくく、戸惑いがあること、また各観点については観点項目を1つのまとまりとして理解されており、各観点の中の項目毎について状況把握するということにはなっていないこと、教科間の観点項目の不統一についてはあまり問題にされていないことなどが明らかになった。

(2)これらのことから、義務教育学校における学力評価システムの改善モデルについては、小学校と中学校における評価方法の関連性と一貫性や、教育課程経営のPDSサイクルの視点から考えることの重要性を明確にしたうえで、現行の観点別評価の観点を見直し、整理し、その結果、目標に基づく評価に目標にとらわれない評価を加え、3観点2段階評価と自由記述方式による学力評価システムモデルを提案した。すなわち、実態分析をとおり、児童生徒の学習上の改善の手がかりや見通しを与え、学習意欲を高める学力評価方

式の提案を行った点。このように教師の指導においても効果的で、児童生徒にとっても学習の見通しが立つ学力評価システムの開発は学術上および教育実践上、大きな意味を持つ。

(3)本研究の成果によって、学力評価システムをめぐる議論において、今後の指導要録の改善に関する教育政策を立案する上での科学的な視点と根拠を提示することができる。各学校における学力形成と学力評価の改善を図る上での実践的な手がかりが得られる。教育行政が、指導行政とりわけ学校の学力評価をサポートする上での手がかりが得られる。すなわち、このシステムが実現し、機能するためには、学校内の情報交換ネットワーク形成への努力と教育専門性に裏打ちされた校長・教頭等のリーダーシップが不可欠であり、それを支援する教育委員会の条件整備活動が必要であることを指摘したことである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計13件)

庄子加奈子・長島康雄，小学校理科における生物多様性教育の位置づけ，仙台市科学館研究報告，査読無，第23号，38-44，2014

小泉祥一・長島康雄・佐々木敏紘，野外文化教育としての生活体験が防災意識に与える影響，野外文化教育，査読有，第12号，掲載確定，2014

小泉祥一・長島康雄，野外文化教育活動としての学習プログラム「泉ヶ岳ってどんな山？」の教育的意義と実践，東北大学大学院教育学研究科年報，査読無，第62集・第1号，351-368，2013

長島康雄，生物多様性に関する条約の制定が学校教育に与える影響と環境教育に求められる役割，環境教育研究紀要，査読無，第15号，81-86，2013

芥川祐征・小泉祥一，中高一貫教育学校における教育課程経営と校長の経営行動，東北大学大学院教育学研究科ネットワークセンター年報，査読無，第13号，61-71，2013

長島康雄・小泉祥一，野外活動を効果的に展開するための教材開発，仙台市科学館研究報告，査読無，第22号，33-44，2013

長島康雄・西城光洋・菊池正昭・小泉祥一，2011年東北地方太平洋沖地震を体験した中学生による地震学習評価アンケートの分析，仙台市科学館研究報告，査読無，第22号，7-14，2013

小泉祥一・芥川祐征，高等学校教育課程経営における校長の経営行動の特徴分析，公教育計画研究，査読有，公教育計画学会，第3号，138-153，2012

芥川祐征，戦後教育改革期における校長の現職教育の特徴と課題，東北大学大学院教育学研究科年報，査読無，第61集・第1号，83-106，2012

小泉祥一，東日本大震災からの復興と学校教育の課題，教育方法，第41巻，日本教育方法学会，査読有，12-22，2012

小泉祥一・長島康雄，学校緑化の学校経営・授業経営的研究 - 仙台市立岩切小学校の校舍移転を事例として - ，野外文化教育，査読有，第10号，53-60，2012

芥川祐征・小泉祥一，高大連携事業校における教育課程経営と校長の経営行動 - 宮城県S高等学校における校長の意識調査を通じて - ，東北大学大学院教育学研究科ネットワークセンター年報，査読無，第12号，47-57，2012

芥川祐征・小泉祥一，高等学校教育課程経営における校長の経営行動と学校条件との対応関係に関する研究，東北大学大学院教育学研究科年報，査読無，第60集・第1号，251-274，2011

〔学会発表〕(計17件)

小泉祥一，小中一貫義務教育学校における教育課程経営の特徴と課題 - 東北地区公立学校の場合 - ，東北教育実践・経営学会第30回定例研究会，2014年2月9日，仙台市立富沢中学校

小泉祥一，指導要録の改訂過程にみられる学習評価の考え方の特徴と課題 - 小中一貫教育と学習評価経営の視点から - ，東北教育実践・経営学会第28回定例研究会，2013年9月28日，山形県大石田町立大石田北小学校

小泉祥一，小中一貫教育と小規模学校の未来，東北教育実践・経営学会第28回定例研究会(招待講演)，2013年9月27日，山形県大石田町立大石田北小学校

小泉祥一，東日本大震災を乗り越えて生きる子ども，学校，教師，地域 - 学校経営研究の立場から - ，野外文化教育学会第14回大会，シンポジウム招待講演，2013年9月22日，いわき市福祉・健康プラザ

及川英美子，小中一貫教育のカリキュラム作成と実践，東北教育実践・経営学会第 26 回定例研究会，2013 年 2 月 11 日，仙台市七北田小学校

松浦弘志，義務教育学校の課程修了の認定過程における出席の取り扱い，東北教育実践・経営学会第 26 回定例研究会，2013 年 2 月 11 日，仙台市七北田小学校

小泉祥一，授業における学力評価の現状と課題，東北教育実践・経営学会第 25 回定例研究会，2012 年 12 月 23 日，仙台市荒町小学校

小泉祥一，教育課程経営と校長のリーダーシップ，宮城県教育研修センター高等学校・特別支援学校長研修会（招待講演），2012 年 10 月 15 日，仙台国際センター

小泉祥一，東日本大震災を乗り越えて生きる子ども，学校，教師，地域，野外文化教育学会第 13 回大会，シンポジウム（招待講演），2012 年 9 月 23 日，石巻専修大学

小泉祥一，震災後の教育を考える，栃木県那須塩原市立小学校教頭会研修会（招待講演）2012 年 8 月 21 日，東北大学

小泉祥一，研究開発学校：仙台市立七北田小学校の地域共生科の開発，日本カリキュラム学会第 23 回課題研究（招待講演），2012 年 7 月 7 日，中部大学現代教育学部

小泉祥一，改訂中学校生徒指導要録にみられる学力・学習評価の特徴と課題，東北教育実践・経営学第 23 回定例研究会，2012 年 7 月 1 日，仙台市立南小泉中学校

小泉祥一，改訂指導要録にみられる学力・学習評価の基本問題，東北教育実践・経営学第 21 回定例研究会，2012 年 1 月 22 日，仙台市立荒町小学校

小泉祥一，東日本大震災からの復興と学校教育の課題，日本教育方法学会第 47 回大会特別課題研究（招待講演）2011 年 10 月 1 日，秋田大学

小泉祥一，東日本大震災後の教育の取り組みと課題 - 教育研究の立場から - ，東北教育実践・経営学第 19 回定例研究会シンポジウム（招待講演），2011 年 8 月 27 日，仙台市立南吉成中学校

小泉祥一・芥川祐征，高等学校教育課程経営に関する実証的調査研究（2）- 特色ある高等学校における校長の経営行動の特徴分析 - ，東北教育実践・経営学第 19 回定例研究会，2011 年 8 月 27 日，仙台市立南吉成中学校

小泉祥一・芥川祐征，高等学校教育課程経営に関する実証的調査研究（1）- 特色ある高等学校における校長の意識調査を中心に - ，日本カリキュラム学会第 22 回大会，2011 年 7 月 7 日，北海道大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小泉 祥一（KOIZUMI, Shoichi）
東北大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：30136410

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

有本 昌弘（ARIMOTO, Masahiro）
東北大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：80193093